

ACANTHUS NEWS



「アカンサス」(和名「ハアザミ」)は、南ヨーロッパ原産で葉を様式化した文様はギリシャ建築などで有名。金沢大学の校章も、このアカンサスの葉を図案化したもの。

平成13年 **2001.4**

月刊アカンサスニュース
金沢大学広報紙 第56号

学位記・修了証書授与式を挙行

TOPNEWS



法学部代表への学位記授与

3月22日、金沢市観光会館で、平成12年度金沢大学学位記・修了証書授与式が挙行され、2,546名に学位記、修了証書が授与された。また、今回から新たに学長表彰が行われた。

〔学長告辞及び関連記事は2頁、3頁に掲載〕

前期・後期合わせて1,881名の 学部合格者を発表

平成13年度学部入学者選抜試験については、3月9日に前期日程の合格者1,491名が、同22日に後期日程の合格者390名が、それぞれ発表され、例年どおり角間キャンパスの大学会館横の掲示板前に集まった多くの受験生たちの一喜一憂する姿が見られた。

なお、発表になっている推薦入学139名、帰国子女2名、私費外国人留学生等12名と併せて本学の合格者は2,034名となった。



前期日程の合格者発表風景

卒業式における学長告辞

平成12年度

金沢大学学位記・修了証書授与式学長告辞

本日ここに、平成12年度金沢大学学位記・修了証書授与式が挙行されましたこと誠に慶賀に存じます。ただいま学部卒業生1,914名、大学院修了生604名、専攻科修了生1名、別科修了生27名に学位記、修了証書を授与いたしました。卒業生、修了生の皆さんおめでとうございます。心からお祝いを申し上げます。ご家族の方々は、会場の外で参加されています。このことをまずお赦しいただき、これまでのご苦勞への感謝と併せ、お喜びを申し上げます。

金沢大学は石川県金沢市にあって、加賀藩以来の歴史を刻み、日本海側の基幹大学として我が国の高等教育、世界の学術研究の発展に貢献してまいりました。21世紀を迎えた今、本学は「人類の知的遺産の継承と革新を目指し、地域と世界に開かれた大学」を理念・目標に掲げ、学部教育の充実と大学院を重点化した総合大学として、新しい一歩を踏み出そうとしています。

皆さんの多くは、4年間あるいは6年間を本学で学び、金沢の街で生活し、多くの友人と親しみ、自己の形成に努められました。卒業そして修了にあたり、このことに誇りと自信を持って、またこれまでお世話になった方々への感謝の気持を忘れずに、金沢の地から大きくはばたいたいと存じます。

さて、諸君はこの4月から社会人として、あるいはさらなる学問研究に向けて新たな出発をいたします。社会は、人間が共同生活を営む上で、その関係が総体として現われる集団よりなりますが、それは市民の集団と職業人の集団とに大別されます。市民の集団は、個人が集まる家族を単位として、市町村、都道府県、そして国へと階層的に広がる、いわゆる行政の自治で括られる集団です。他方、職業人の集団は、家庭、学校、会社、病院、役所など、

市民の生活に関わる様々な組織に属する集団です。社会はこのような階層的で多様な構造からなる二つの集団が相互に連携し、政治、経済が営まれ、文化が育成されます。諸君はこれから、これまでのご家庭の庇護から独立した市民として、また学校で学ぶ側からそれを活かす職業人として活躍することになりますが、ここでは公に立った個人の行動が問われることとなります。政治、経済、文化における活動は言うに及ばず、今我が国が直面している環境、資源、さらには少子・高齢化の問題への対応においても、このことが大切と言えましょう。そして、個人には自己決定のための主体性と、自己責任を伴う自律性が求められることを認識していただきたいと存じます。

諸君はさらに、国際化の時代にあつて、国際市民としての行動と広い視野を持つことが望まれます。21世紀の世界は、グローバルな流れが一段と加速されましようが、このような流れは、流れを起こそうとする力が、それを動かすまいとする力を越えたときに生じます。温度差が密度差をもたらす、それによる浮力が粘性力に打ち勝つとき自然対流が生じ、これは空間スケールが大きいほど強いものとなります。改革においては、駆動力である意識を高め、抵抗となつてこれまでの制度や因習を排し、組織のセクションの壁を低くすることが必要となりましよう。

冷戦の終結は、国家の政治やイデオロギーの壁を低くし、グローバルな経済の流れを引き起こしていますが、この流れは一方で国や地域の文化をも呑み込もうとしています。イデオロギーや政治・経済で国が立ち行かなくなりつつある今日、それぞれの国の文化を大きく類別した文明で、国を束ねようとする新たな動きが生じています。

欧州連合EUは、キリスト教文明を共有する15カ国が、自分達

目次

学位記・修了証書授与式を挙行	1	第3回分析機器講習会	8
前期・後期合わせて1,881名の学部合格者を発表	1	平成12年度事務系職員海外調査・ 研修事業派遣事業帰国報告会	8
平成12年度 金沢大学学位記・修了証書授与式		辰口の大学施設視察	8
学長告辞	2	新任部局長、評議員、施設長辞令交付	9
大学評価に関する講演会	4	3月退職者の永年勤続表彰	9
男女共同参画に関する特別講演会開催	4	附属学校園の卒業・修了式で学長・副学長が祝辞	10
大連大学と大学間交流協定締結	4	本学へのお客さま	10
公開シンポジウムプロジェクト金沢 開催	5	金沢大学サテライト・プラザ	11
「情報公開法」準備完了	5	「金沢大学サテライト・プラザ」常設仮オープン	11
「留学生教育懇話会」に15大学参加	5	「角間の里山」で竹切り	12
進む教育方法改善 工学部におけるFD	6	「角間大橋」渡り初め	12
薬学部FD	7	日韓共同理工系学部留学生第1期生修了	12
教養教育機構FD	7	編集後記	12
キャンパス点描	7		

卒業式における学長告辞

のアイデンティティーを維持しつつ、経済発展を目指しているものです。単一通貨ユーロにより、企業と投資家が国を越えて結びつき、流動性の高い市場を確立しつつあり、数年後には30に近い加盟国のもとで欧州連合体を形成しようとしています。EUにおいてはまた、大学間の教育研究をはじめ様々な分野での連携も既に動き出しています。東アジア圏では、このような国を越えた領域の形成^{リージョニング}regioningの計画はありません。経済大國の日本は、残念ながら、それに対するリーダーシップを發揮できない立場にあります。

世界がこのように大きく変化しているなかで、我が国は東アジア圏のリージョニングはままならず、日米のバイ・リテラルな関係を維持しています。しかし、国内には、政治、経済、そして教育においてさえも様々な問題が吹き出しており、そのためすべての議論が外向きではなく内向きに終始しています。諸君はこのような時代に、市民として職業人として日本丸という船に乗り込みます。「国家が諸君のために何をすることができるかを問うてはいけない。諸君が国家に何をしてやれるかを問いたまえ」。これはケネディの言葉ですが、今の日本では、国家に多くは期待できません。乗組員である諸君は、自ら帆を上げ、舵を取り、船を動かさざるを得ませんし、そこでは傍観は許されません。諸君の一人一人が学んだ専門に根ざし、かつ自主自律に立った個性が、公に立った全体の総意となるときはじめて、グローバルな強い流れに立ち向うことができるはずです。そして、このような多様性こそ、今求められていることと言えましょう。

寒気も緩み、それに呼応して、角間の里の草木は萌動し、浅の川の流れは美しい微風とともに蒼き波をたたえています。諸君におかれては、自然に恵まれ詩情豊かな学府・金沢で学生生活を送った感動を胸に刻み、世界に向けて大きくはばたかれましよう。金沢大学はいつまでも諸君とともにあります。個性を磨くために、再び母校に戻る事があれば幸いです。その時には是非、母校に社会の新風を吹き込んでいただきたいと存じます。諸君の健闘を称え、さらなる発展を祈念し、告辞とします。



告辞を述べる林学長



卒業式での副学長・部局長等

卒業生・修了生数

1 卒業生数

文	学	部	173名	
教	育	学	部	215名
法	学	部	225名	
経	済	学	部	200名
理	学	部	186名	
医	学	部	315名	
薬	学	部	79名	
工	学	部	521名	
合	計		1,914名	

2 修了生数

(1) 大学院

大学院文学研究科(修士課程)	24名
大学院教育学研究科(修士課程)	58名
大学院法学研究科(修士課程)	15名
大学院経済学研究科(修士課程)	7名
大学院理学研究科(修士課程)	1名
大学院自然科学研究科(博士前期課程)	435名
大学院社会環境科学研究科(博士課程)	11名
大学院自然科学研究科(博士後期課程)	53名
合 計	604名

(2) 専攻科

特殊教育特別専攻科	1名
-----------	----

(3) 別科

養護教諭特別別科	27名
----------	-----

卒業生・修了生総数	2,546名
-----------	--------

3月のニュースの杜



講演する川口教授



発言する林学長

大学評価に関する講演会

3月26日、事務局大会議室で、平成12年度第4回金沢大学フォーラムとして、大学評価・学位授与機構から講師を招き、「平成12年度に着手する大学評価に関する講演会」が開催された。

講師は、大学評価・学位授与機構の川口昭彦大学評価委員会委員（東京大学教授）で、大学評価事業の趣旨及び概要について講演が行われた。講演の後、林学長、花岡副学長、畑点検評価委員会委員長（工学部長）も討議に加わり、大学評価の在り方についても意見交換が行われた。

講演会終了後、川口委員は、分野別研究評価の対象となっている本学の理学部関係教職員と懇談した。

男女共同参画に関する特別講演会開催

3月6日、大学会館ホールで、松下電器産業(株)春木節子労政部門均等雇用担当部長兼女性相談室長の「イコール・パートナーシップの実現に向けてー真の男女共同参画企業を目指してー」と題する講演会が開催され、畑副学長、水上事務局長をはじめ、本学教職員約100名が参加した。

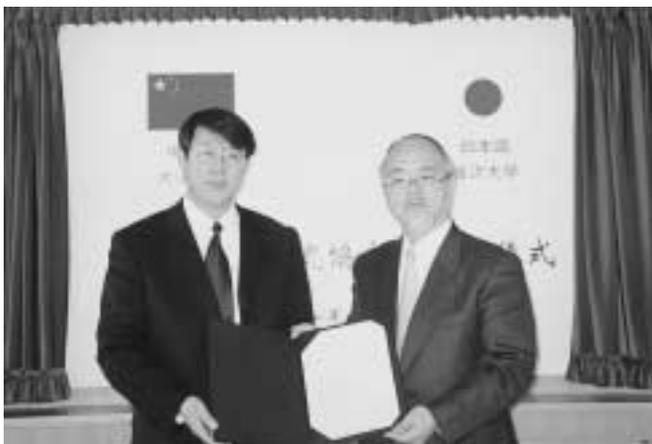
春木氏は、「女性の能力活用をめぐる課題」の中で、女性と男性とで与える仕事が違うのではないかと指摘し、男女ではなく、適性を見て判断すべきだと述べた。



大連大学と大学間交流協定締結

3月8日、中国大連大学において、本学と大連大学との大学間交流協定を締結した。本学から、廣瀬幸雄理学部教授が、林勇二郎学長署名の協定書を持参し調印式に出席した。

この後、蘇州大学、北京師範大学を訪問し、中国の大学事情・大学改革等の状況について調査した。



魏学長と廣瀬教授

3月のニュースの杜

公開シンポジウム
プロジェクト金沢 開催

3月3日、石川県立社会教育センターで、公開シンポジウム「プロジェクト金沢ー産学官協力の最前線ー」が開催された。シンポジウムは、林勇二郎学長、宮下孝晴大学教育開放センター長のあいさつで幕を開け、本学放送講座のダイジェスト版の上映を挟み、共同研究の意義、現状及び今後の方向等について協議した。

当日は、宮本外紀助石川県産業創出支援機構プロジェクト推進部長、日根野昇加賀種食品工業(株)代表取締役、能登隆市能登印刷(株)代表取締役及び、小森友明工学部教授をパネリストに迎え、本学大学教育開放センター浅野秀重助教授がコーディネーターを務めた。

「産」代表のパネリストから、「学」に対しては、目立たない、金にならないものには共同研究の話に乗ってこない、「官」に

対しては、補助金交付の際、平等平等というばかりではなく、もっと内容を見て判断してほしいとの意見が出されるなど、今後の共同研究にとって有意義なシンポジウムとなった。

最後は、内田忠平大学教育開放センター教授のあいさつで会を締めくくった。



発言する日根野氏



3月27日、4月1日から「行政機関の保有する情報の公開に関する法律」（「情報公開法」）が施行されることに伴い、こ

「情報公開法」準備完了

の手続き等について事務局で説明会が開催され、全部局から事務担当者が出席した。

開示請求者に対する手続き等の周知及び対応について、総務部の担当者から心構えと留意点の説明があった。

これは2度目の説明会で、「情報公開法」施行への準備を終えた。

「留学生教育懇話会」に15大学参加

3月19日、事務局第2会議室で「留学生教育における現状と課題」のテーマで、文部科学省・金沢大学留学生センター主催の留学生懇話会が開催された。

大橋信喜美留学生センター長の開会のあいさつの後、電気通信大学小山直人教授、大阪大学古城紀雄教授、西口光一教授が報告し、これに基づく討論が行われた。

出席者は、北海道、東北、群馬、千葉、東京、東京学芸、電気通信、信州、名古屋、名古屋工業、京都、大阪、神戸、鹿児島、金沢の各大学留学生センター教官、留学生担当教官

及びに内外学生センター所長の25名で、当面する留学生の問題について活発に意見交換がなされていた。

あいさつする大橋留学生センター長



教育方法改善, いま

進む教育方法改善 工学部におけるFD

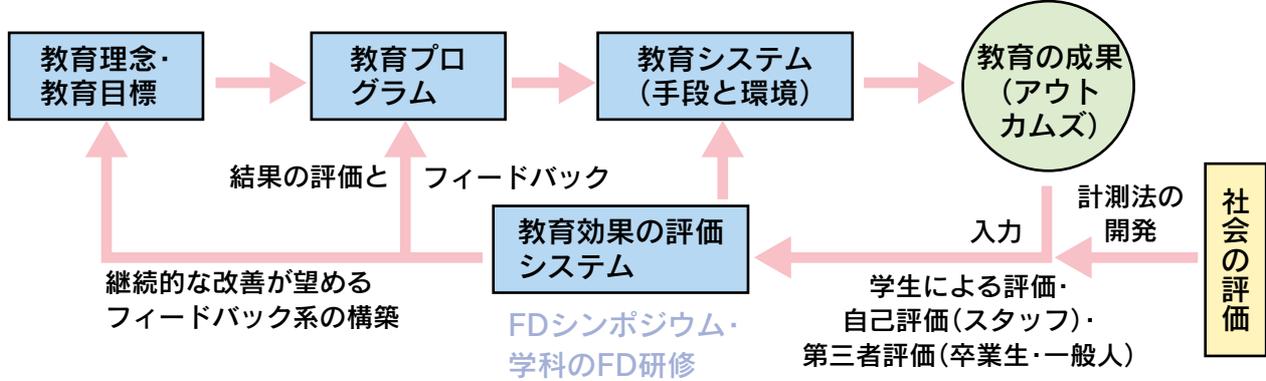
工学部は3月8日, 総合教育棟を会場に第2回目となるFD (=Faculty Development) シンポジウムを開催した。当日は, 教官と技官が総勢で約170人が出席し, 1年間実施してきた教職員自身の授業方法改善の取組みと, 課題探究能力の

ある学生の育成を目指して導入した「創成科目」の授業実践結果を総括・点検し, 今後の課題を討議した。

下図では, 紫色は既に実施してきた事項を, 橙色は今後の取組み課題を表している。

- 「ひらめきとねばり」, 「社会に出て活躍する実践力」ある卒業生を輩出するために
1. 入学時から勉強意欲, 職業観を持たせ, 自主的に学ぶ積極性を育成 (動機付けの諸方策)
 2. 分析力, 総合化力, 創造性, 協調性と指導力を育成 (創成科目の新設)
 3. 教育成果を判定・評価し, 教育方法改善を継続的に推進するシステムの導入 (教育の達成度判定)

教育目標設定	教育プログラムの改革	授業方法の改善	評価システムの開発
教育理念・目標の設定と公表 学習目標・到達目標を明示 将来の工学技術者としての目標・希望を持たせる	創成 (デザイン) 科目の実施 ・課題探究型 導入教育の改善・学ぶ動機付けの各種方策 単位の実質化 JABEE認定への対応 6年一貫教育の実践	授業計画の明示 授業方法の創意工夫 (教える授業から育てる授業への転換) 予習・復習の励行策, 理解度の検証 教師必携の作成・配布 初任者教官の教育方法研修	学生による授業評価アンケートの実施 卒業時の評価アンケート実施 教官自己評価の実施 卒業生の達成度評価アンケート実施



「今後の教育改革の取組みの基本方針」について基調講演する岡島厚教授 (工学部教育方法改善委員会委員長)
3月8日午前, 総合教育棟で

FD: Faculty Development

薬学部FD

薬学部は、3月10日、東海大学理学部の安岡高志教授を講師に招き、薬学部講師以上の教官がほぼ全員出席して、「金沢大学薬学部における学習目標」及び「個別授業の改善」をテーマにFD研修会を開催した。

研修会では、安岡教授による「学習目標」についての東海大学における事例を引いた講義、及び午後からの「個別授業の改善」に関する講演に参加者一同が大いに盛り上がった。また、学部長の基調講演、約10人の小グループに分かれての討論、全員参加のパネルディスカッションが行われ、薬剤師

教育及び研究者養成について白熱した議論が交わされ、今後の改善に意欲を燃やした。



教養教育機構FD

教養教育機構では、3月19日午前10時から、第3回目となる金沢大学教養教育全学研究会を開催した。同研究会は本学のFD活動の一環として平成10年度から毎年開催している

午前には、林学長のあいさつの後、香川大学の小柳晴生教授から「豊かな時代の大学と学生サービス」と題して講演があり、午後は分科会テーマ報告、分科会別討論、全体会議を行った。

今回は、「学生生活」と「カリキュラムなどの大学のシステム」の二つの柱で、「豊かな時代の大学と学生サービス」、「工学部における相談教官制度」、「経験から語る米国の大学のしくみ」、「総合科目」の4テーマについて討論した。

畑教育担当副学長以下全学から教職員等約80数人が参加し、活発な議論が展開された。



キャンパス点描

平和町キャンパスでの
記念ブロンズ像

平和町キャンパスの附属幼稚園、附属小学校、附属中学校に3つのブロンズ像がある。制作は元附属中学校教諭で、平成13年3月に富山大学教授を退官された山瀬晋吾氏によるもの。山瀬氏は日展会員、日本彫刻会会員等。

左：「中学校」創立50周年を記念した「潮の華」

右：「幼稚園」創立100周年を記念した「花のまわりで」



トピックス

第3回分析機器講習会

機器分析センターは、3月12日、工学部で本年度第3回目の講習会を開催した。

これは、分析機器の共同利用促進と、本学の自然科学教育・研究のレベルの向上に資することを目的としており、今回は、「試料構造評価装置」について実施した。

教職員・学生11名が参加し、真剣に機器の操作等の講習を受けた。



メモをとりながら説明を聞く受講者

平成12年度事務系職員海外調査・研修事業派遣事業帰国報告会



画像を投影して説明する派遣職員

3月19日、事務局でアメリカ合衆国及び中国へ調査・研修のために派遣された事務系職員の報告会が行われ、約70名が参加した。アメリカ合衆国へはタフツ大学を中心に2月4日から11日までの間に3人が、中国へは大連大学、蘇州大学及び北京師範大学へ3月4日から13日までの間に2人が派遣された。

報告会では、レポートとスライドで調査や協議・交渉等についてそれぞれ説明があった。また、水上事務局長から、本年から始めた派遣事業の意義と成果について報告があり、和田副学長及び小林国際学術交流委員会委員長（経済学部長）から、問題点と今後の改善点について指摘があった。

辰口の大学施設視察

3月9日、林学長、花岡副学長は、理学部附属低レベル放射能実験施設と辰口共同研修センターを視察した。

低レベル放射能実験施設では、小村教授（施設長）、山本助教、樋渡理学部長が、施設の案内と研究及び実験の概要説明を行った。

また、辰口共同研修センターは、根川（学生部）学生課長が案内した。同日、男子バレーボール部が合宿中で、学長、副学長は学生を激励した。

視察には加藤総務部総務課長、田中理学部事務長が同行した。



左から樋渡理学部長、林学長、辻男子バレーボール部主将、花岡副学長

トピックス

新任部局長，評議員，施設長辞令交付

部 局 長



医学系研究科長
馬淵 宏

任期:平成13年4月1日~平成14年7月31日



がん研究所長
山本 健一

任期:平成13年4月1日~平成15年3月31日



工学部
金岡千嘉男

任期:平成13年4月1日~平成14年3月31日



大学院自然科学研究科
早川 和一

任期:平成13年4月1日~平成14年3月31日



がん研究所
磨伊 正義

任期:平成13年4月1日~平成14年3月31日

施 設 長



大学教育開放センター長
中西 孝 (理学部)

任期:平成13年4月1日~平成15年3月31日



留学生センター長
堀林 巧 (経済学部)

任期:平成13年4月1日~平成15年3月31日



機器分析センター長
太田 富久 (薬学部)

任期:平成13年4月1日~平成15年3月31日



資料館長
笠井 純一 (文学部)

任期:平成13年4月1日~平成15年3月31日

3月退職者の永年勤続表彰

3月29日,平成12年度末に退職する教職員に永年勤続者表彰等が行われた。

表彰等該当者は,次のみなさん。



表彰を受ける宮口教授

金沢大学永年勤続表彰等該当者

文学部	教授	小牧 純爾
教育学部	教授	宮城 陽
"	教授	宮口 尚義
"	教授	高野 成子
"	教授	藤澤 法映
"	専門職員	椎森 悠
"	事務主任	前田 邦子
経済学部	教授	盛大衛
文・法・経済学部	事務長	中島 宏
"	事務長補佐	高橋 稔
理学部	教授	須原 正彦
"	教授	林田 和也
"	助教授	西川 洋明

理学部	事務主任	齊藤 郁子
医学部	事務長	南 茂樹
"	学務第二係長	高木 靖順
"	技術専門職員	上尾 信義
"	技術専門職員	武田 与吉
"	教務主任	河田富士子
"	自動車運転手	新谷 敏雄
医学部附属病院	副臨床検査技師長	二俣 秀夫
"	主任臨床検査技師	笹島 正一
"	副診療放射線技師長	北野 保
"	副看護部長	毛利 駒江
"	看護婦長	坂本 春栄
"	副看護婦長	田中 洋子
"	専門職員	木倉 嗣郎

医学部附属病院	専門職員	中川 清治
"	監査係長	村上登志明
薬・がん研究所	実験助手	百嶋芙美子
工学部	教授	中島 正
"	事務長補佐	向 光宏
がん研究所	助手	氏家 俊光
以上33名		

文部科学省永年勤続表彰該当者

文・法・経済学部	事務長補佐	高橋 稔
医学部	事務長	南 茂樹
工学部	事務長補佐	向 光宏
以上3名		

学長・副学長室

附属学校園の卒業・修了式で 学長・副学長が祝辞

平成12年度の附属学校園の卒業式・修了式は3月6日の高等学校を皮切りに同9日に養護学校、同13日に幼稚園、同14日に中学校、同15日に小学校で、それぞれ行われた。



附属幼稚園で祝辞
を述べる畑副学長



附属小学校で祝辞を述べる林学長



附属養護学校で祝辞を述べる林学長

附属中学校では和田副学長が祝辞を述べた。



附属高等学校で祝辞を述べる花岡副学長

本学へのお客さま



ペンシルバニア大学 (アメリカ合衆国)
大学評議会議員 (海外留学担当)
ジューン・スバルディング教授 (左から2人目)
キャメロン・ハースト三世教授 (左から3人目)
3月15日, 学長室で



レーゲンスブルク大学 (ドイツ)
ギュンター・ハウスカ教授 (中央)
3月9日, 学長室で

サテライト・プラザ

「金沢大学サテライト・プラザ」

第14回 3月3日(土)

金沢大学大学教育開放センターが主催し、金沢大学共同研究センターが共催した公開シンポジウム「プロジェクト金沢 産学官協力の最前線」を、サテライト・プラザの共催事業として実施した〔5頁に関係記事〕

来場者：80人



シンポジウム会場

第15回 3月17日(土)

講師 加藤 和夫
(教育学部助教授)

演題 「方言の^{いま}現在 石川県内の事例を中心に」

金沢で「まっし」などの方言が金沢の観光宣伝に効果的に利用されていること、また、日本語の一部として方言の教育を行うことなどについて述べた。

いやしという観点から、医療の現場での方言療法の実際について質問があった。

金沢大学「健寿会」は、勉強の一環として参加した。

来場者：50人



加藤助教授



第16回 3月31日(土)

ミニ講演は行われなかった。

来室者から、大学院の社会人入学、夜間開講への要望、科目等履修生の入学方法、学部学生の推薦入学等についての相談と要望があった。

来場者：7人

「金沢大学サテライト・プラザ」
常設仮オープン

4月14日(土)から仮オープンした。開設日及び休日は、次のとおり。

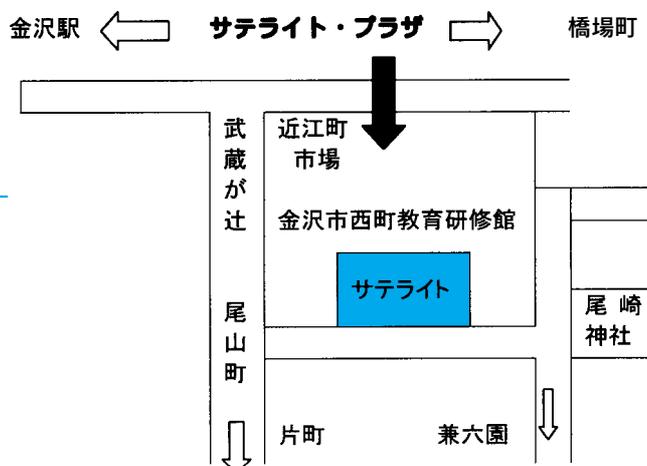
開設日・時間 平日 11時～19時 土・日・祝日 10時～18時

休日 火曜日、祝日及び振替休日の翌日

申込・お問い合わせ

総務部企画広報室 電話 076-264-5020

FAX 076-234-4015



「角間の里山」で竹切り

3月24日、角間の里山で、学内外の「里山メイト」が集まり、竹切りが行われた。



「角間大橋」渡り初め

このほど角間川に、県道金沢・井波線と総合移転第Ⅱ期用地とを結ぶ橋が完成し、「角間大橋」と命名され、3月16日、同橋たもとの記念式典が行われ、林学長以下約40名が参列して完成を祝い渡り初めを行った。



テープカットに臨む関係者

日韓共同理工系学部留学生 第1期生修了

3月27日、「日韓共同理工系学部留学生事業」による初の修了式が、事務局第2会議室で行われた。この事業は、日本及び韓国相互の協力に基づくものとして平成12年度から実施されている。修了生3名は4月から工学部に入学した。



修了式であいさつする畑工学部長

編 集 後 記

年度末、私にとっては初めてではあるが、人事異動の時期がやってきた。総務部長が本学を去られることになった。かく言う私も採用とともに企画広報室、このアカンサスニュースを担当するようになってから半年足らずとはいえ、異動の対象となった。

さて、3月は、合格発表、卒業式と大きな行事が続き取材に出かける回数も多かった。半年前にはカメラの使い方もままならなかったが、3月22日の卒業式では、2千数百名の卒業生を前にしてカメラを構える自分がいた。難しいが非常にやりがいのある仕事を与えられていると感じた。ここまでやることのできたのも指導してくださった皆さまのおかげだと思っている。

感謝したい。

4月からは、「情報公開法」の施行、サテライト・プラザの常設など、金沢大学が新たな姿を社会に披露することになる。

秋に散った葉は、土に返り花を咲かせる養分となる。新年度に皆で力を合わせて、美しい花を咲かせたいものである。

3月30日記

中川 尚之

3月まで総務部企画広報室
アカンサスニュース担当係員



平成13年4月20日発行
(原則として毎月1回第3週に発行)

〒920-1192 金沢市角間町
編集 金沢大学総務部企画広報室

TEL 076-264-5022
FAX 076-234-4015

◆本紙の内容、その他の本学に関する諸情報については、「金沢大学ホームページ」(愛称“KUPIS”(キューピーズ))
(アドレス=<http://www.kanazawa-u.ac.jp>)でもご覧いただけます。
◆本紙に関する御意見・御要望などは、電子メール(E-mail) = general1@kenroku.kanazawa-u.ac.jp でも受け付けています。